

# Hakone Kick-off Festival～共生と共創～

## サポーター様向け 開催報告書

一般社団法人 MATSURI

代表理事 山地 翔太

### ～目次～

- |         |           |
|---------|-----------|
| 1. はじめに | 5. 企画詳細報告 |
| 2. 開催経緯 | 6. まとめ    |
| 3. 開催概要 | 7. サポーター様 |
| 4. 収支報告 | 8. 謝辞     |

## 1. はじめに

この度は、MATSURI が主催する『箱根祭 Hakone Kick-off Festival～共生と共創～』の開催に際し、ご寄付を賜りまして誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

開催から4ヶ月が経過して、本会の価値は決して一時に留まるものではなかったと、我々は感じております。本報告書では、そうした温度感や臨場感をできるだけ皆様と共有させていただきたいと考えております。ぜひ添付の写真や動画も併せて、お楽しみください。

コアスタッフ一同



## 2. 開催経緯

本会の構想が決まったのは、2022年3月末に、代表の私 山地が一般社団法人高校生みらいラボが主催する **Hakone Co-living Camp** に正式メンターとして参加した時のことでした。

Co-living Camp は、全国の U20 の中学生～高校生～大学生が参加する共同生活型のキャリア開発合宿です。事前にコーチングワークショップを受けた参加者は、荒削りながら、自らのやりたいことの仮説を持って、会に参加します。しかし、会と言っても、決まったタイムスケジュールはなく、自らが行動を起こさなければ何も得られないという厳しい環境です。一方で、もし自ら行動を起こすのであれば、各業界の第一線で活躍するリーダー達と語り合い、大いに世界を広げ、深めることができます。そして実際に、逆境の中から人生を自らの手に引き戻し、劇的な変化を遂げる若人を幾人も目にしました。

結局私は、Hakone Co-living Camp、Ishigaki Co-living Camp と合計2週間参加し、本会に感銘を受けました。これこそが真の学び場であり、学びとは自由への道であると知りました。長らく、技術専門学校と化していく医学部の状況に危機感を覚えていた私は、**mechanical arts** ではなく **liberal arts** を学ぶ場の必要性を強く感じていました。liberal arts、すなわち自由に生きるための技術をいかにして身につければ良いか。その research question に一つの仮説を得た思いでした。

まずは Co-living Camp を模倣して、一歩ずつ、**次世代のヘルスケア業界の担い手を育てる場として洗練させていく**、それが社会起業家としての私の最初の使命になりました。こうして、社会起業家としての私の仮説検証が始まり、本会を開催するに至ったのです。

## 3. 開催概要

【会場】LIME RESORT HAKONE (<https://limeresorts.com/hakone/>)

【全日程】2022年12月17日(土)～12月18日(日)

【参加者】全国の医学生・研修医 100名

【開催概要】

本会は、全国の医学生、医師を対象とした、自己探求(自分の好奇心に気づき、広げ、深める)と社会探求(自分の好奇心を通じて、新しい人や知識と繋がる)を目的とした **liberal arts 特化型のキャリア教育イベント**です。100名が1泊2日の共同生活を営みながら、互いの好奇心をかけ合わせて共創を生んでいきます。

参加者は事前にメンタリング/コーチングを受け、自分の好奇心を明確にして、profile を作成します。当日は、参加者個人または参加者同士で各種企画や催しを企画して、参加し合うお祭りをします。

#### 4. 収支報告

収支：－795,760 円

支出合計：2,425,760 円

(内訳)

宿泊費 (15,730 円/名 \* 95 名) = 1,494,350 円

スイートルーム使用料 (12,100/室 \* 3 室) = 36,300 円

会場使用延長料 (60,500/時間 \* 11 時間) = 665,500 円

入湯税 (150 円/名 \* 95 名) = 14,250 円

夕食費 (1000 円/名 \* 100 名) = 100,000 円

朝食費 (864 円/名 \* 99 名) = 85,536 円

雑費 (名札・スタッフパーカー・予備食料) = 29,824 円

収入合計：1,630,000 円

(内訳)

宿泊費 (10,000/名 \* 91 名) = 910,000 円

宿泊費 (50,000/室 \* 1 室 2 名) = 50,000 円

宿泊費 (35,000/室 \* 1 室 1 名) = 35,000 円

寄付金 (個人・法人含む) = 635,000 円

#### 5. 企画詳細報告

##### a. 開会式

担当. 山地 翔太 (南生協病院 研修医 2 年目)



開会式では、私 代表の山地が 1 時間ほど語りました。話す内容も、資料も用意せず、ただ MATSURI のロゴを背中に掲げて、胸にある湧き上がる想いをゆっくりと語りました。この場で私は、Authentic Leadership (等身大のリーダーシップ) を体現する必要がありました。自分を強く大きく見せるのではなく、ただありのままに、自分の弱さや儂さまでさらけ出す、そういう人間としての在り方です。どんな想いを持って生きているか、どんな想いでこの場に来ているかは、人それぞれです。それでも、この場に存在するすべての人が、心

理的安全性を感じて、自らのありのままの心を解き放てるようにと、祈りを込めました。

全てを話し終えた後、私は心身ともに疲労していました。そんな私に、多くの参加者の方々が、声をかけてくれました。共通していたのは、この瞬間、何かしらの『共鳴』を生めたことでした。結果として、共生と共創という本会の副題に相応しい、最高の幕開けを切ることができました。

## b. 自己紹介ワークショップ

担当. 宇高 彩（旭川医科大学医学部医学科 4 年）



開会式の後には、すぐに自己紹介ワークショップに移りました。コアメンバーである宇高がファシリテーションを務め、医学生という表面的な肩書きにとらわれない、深い人間性を共有できる自己紹介の方法を提言しました。全体を 4 つのグループに分け、できるだけ多くの人と 1 対 1 で自己紹介ができる設計でした。本会の開催前に、参加者一人一人がオンラインのコーチング/メンタリングを通して作成した profile が名札の裏側に印刷してあるため、自己紹介の際には profile に記載された自分の Vision や Mission を中心に、互いの想いを語り合っていました。本会では、互いの夢や想いについて自由に語り合える場であるという空気感を醸成するだけでなく、結果としてアイスブレイクの役割も果たし、最高のスタートダッシュ企画になりました。4 年生の宇高を、最高学年のコアスタッフである筧と千手がサポートしている光景も印象的でした。

## c. キャリアワークショップ

担当. 千手 孝太郎 (関西医科大学医学部医学科 6 年)



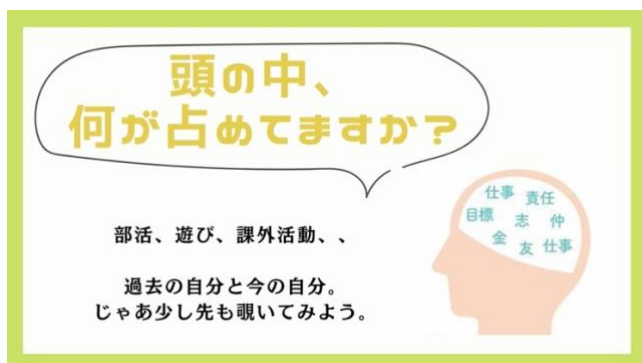
自己紹介ワークショップで互いの夢や想いを語り合った後は、コアメンバーの千手がファシリテートを務める形で、参加者一人一人のキャリアビジョンについて深めるワークショップが開催されました。事前のコーチング・メンタリングでは、自らの言葉で自分のMission/Vision/Valueを削り出しており、本ワークショップではその3つの関係を構造化していきました。抽象的であったキャリアビジョンが各人の中で具体性を増していき、参加者同士で意見交換する様子も見られました。今後、子供の教育にも携わっていきたいと考える千手が、自己探求の果てに企画した、画期的なワークショップでした。

#### d. 医学生探求型ワークショップ

コアメンバーの医学生4名が、各々の好奇心のままに問いと仮説を持って、ワークショップを企画しました。参加者は自由に企画を選択し、参加しました。医学部ではclinical questionやresearch questionを立てる方法を学びますが、真に自由な発想で自らの好奇心のままに問いを立てることで、真の探求を行うことができました。自分の問いに対して仮説検証をする手段としてワークショップを構想するメンバーもいれば、直感的にやりたいワークショップを着想して、それから背景にある自らの問いに気づくメンバーもいました。参加者の中には、企画者のコアメンバー達に刺激を受けて、自由時間に自分でワークショップを即興で企画する人もいました。

企画名：頭の中、何が占めていますか？

担当. 難波 美羅（慶應大学医学部医学科3年）



企画名：“おいしい瞬間”を考えてみる

担当. 宮脇 里奈（京都大学医学部医学科6年）





企画名：日本一の島を作ってください

担当. 笥 みなみ (島根大学医学部医学科 6年)

問い、  
日本一の島を  
つくってください。

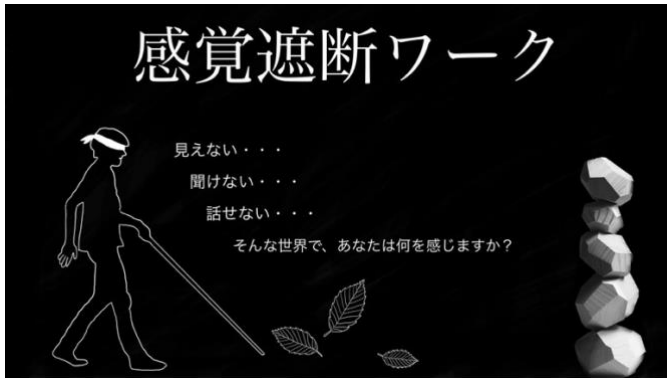


ただし、  
人口18,745人、面積345.92km<sup>2</sup>、人口密度54.2人/km<sup>2</sup>、  
アクセス方法はフェリー、高速船、飛行機の3通りとし、  
島民とあなたは非せでなければならない。



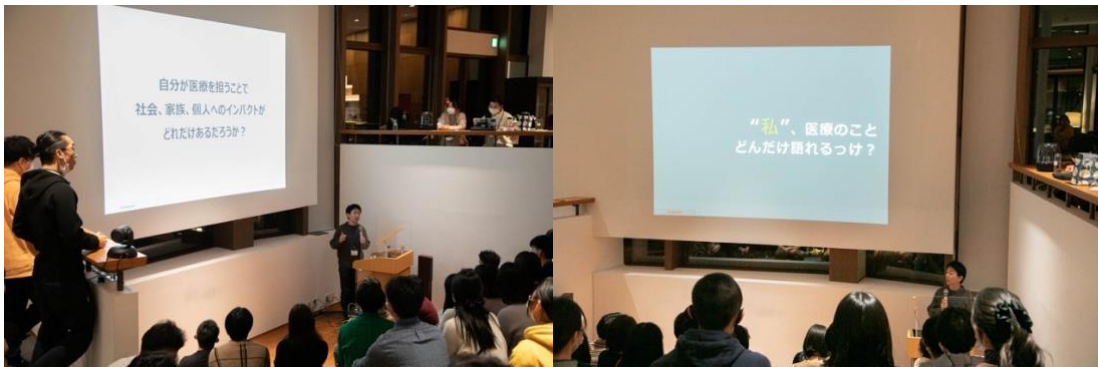
企画名：感覚遮断ワーク

担当. 渡邊 大晟 (国際医療福祉大学医学部医学科 4年)



#### e. 山本雄士ゼミ

担当. 山本 雄士氏 (株式会社ミナケア 代表取締役)



医師として日本で初めて Harvard Business School (HBS) を卒業した山本 雄士氏をお招きして、山本雄士ゼミを開催しました。本ゼミは、毎月東京にて開催されており、HBS を再現する模擬ゼミを行なっています。ゼミのテーマでもある『医療と私とマネジメント』について、考える切り口となる知識を共有してくださると共に、医学生の視座を高める問いを投げかけてディスカッションをファシリテートしてくださいました。ディスカッションは大いに盛り上がり、参加者は次々と手を挙げて、自らの問いをぶつけていました。医療を多角的に思考し、自らのキャリアイメージを広げる時間になりました。

#### f. 共創団体紹介



共創団体一覧（敬称略）

- ・文部科学省 トビタテ留学 JAPAN!!
- ・一般社団法人 病院マーケティングサミット JAPAN
- ・山本雄士ゼミ
- ・PROJECT FRONTLINE
- ・TOMO Global Heath
- ・ちいここ
- ・総合診療勉強会 東京どまんなか
- ・TEAM KANSAI
- ・KEMA

各共創団体の方々から 5 分ずつ、オンラインまたはオフラインで活動紹介をしていただきました。海外留学、国際保健、総合診療、地域医療、Web3、マネジメントなど、多様な領域の活動紹介があり、参加者の今後のアクションに直接影響を与えるきっかけになっていました。

#### g. ダンスワークショップ

担当. 難波 美羅（慶應大学医学部医学科 3 年）/萩野 陽菜乃（国際医療福祉大学医学部医学科 5 年）/宮脇 里奈（京都大学医学部医学科 6 年）





初日の最後を飾った企画は、ダンサーのコアメンバー3人が共創したダンスワークショップでした。モデルとなった Co-living Camp でもアート系の企画は存在していましたが、ダンスに関しては、ダンサーが踊って参加者が鑑賞する、という形式が一般的でした。しかし本企画は『初心者を含め、皆にダンスと音楽を身近に感じてもらい、一緒に楽しみたい』という企画者側の強い思いがあって、全員参加型で開催されました。医師で DJ の近藤敬太先生もお招きして音楽を流していただき、最前列でダンサーのコアメンバーが振り付けを教えながら、皆で練習をして、本番を踊るというワークショップでした。全身で音を感じて身体を動かすことで、自分を表現する楽しさを共有できる最高の時間になりました。

## h. 自由時間



実は最も大切にしていたのが、この自由時間でした。正直なところ、モデルとなった Co-living Camp では事前スケジュールは皆無だったので、本会もそれを目指したかったと

いう本音がありました。しかし、会に来てくださる参加者の皆様、ご支援くださるサポーターの皆様にご理解いただく自信が、当時の私にはありませんでした。**結果として、開催1週間前のタイムスケジュールは、プログラムで過密になっていました。**

心の中にもどかしさを抱えて迎えた、本番4日前の最終ミーティングで、私はコアメンバーにその本音を語りました。すると皆が「したいようにしたらいい」「それに対応できる仲間がここには集まっている」と、そう背中を押してくれたのです。

そして私は大きくタイムスケジュールを変更して、この自由時間を可能な限り確保しました。特に2日目はリフレクションを終えてから、全てを自由時間にすることができました。自由時間にすると、実りの少ない時間になるのではという私の不安は杞憂に終わり、むしろ参加者の主体性、能動性、創性が存分に発揮される結果になりました。

気の合う2人でゆっくりと話し込む、数人でワイワイと盛り上がる、臨時でワークショップを始めるなど、実に多様な景色でした。

私は全ての参加者を訪ねて周り、一人一人に感謝を伝え、心の内を共有する時間を設けました。一人一人、全く異なる表情がそこにあり、喜怒哀楽では語りきれない複雑な感情を共有することができました。共通していたのは、皆が大なり小なりの本音をさらけ出していたことでした。喜びや悲しみの涙を惜しみなく流す参加者を見て、心理的に安全な場をつくることが出来たことを、私は嬉しく感じました。

#### i. リフレクションワークショップ

担当. 山地 翔太 (南生協病院 研修医2年目)



初日の全企画は熱狂と共に幕を閉じ、冷え込む箱根の山奥の景色を眺めながら熱い露天風呂に浸かり、日が回る頃には皆が眠りについていました。飲酒を禁止にするなど、健全な場づくりが参加者の意識を本丸に向け、体調不良者を出すことなく、万全の状態ですべての日を迎えることができました。

朝食を済ませた後は、全体でリフレクシオンワークショップを開催しました。私代表山地がファシリテートを務め、3分間の瞑想を行いました。その後、2人1組になって、会場の好きな場所を選んで座り、リフレクシオンを行いました。

当初はこの後、再集合して閉会式を想定していましたが、あまりにも参加者が自然体で過ごしており、しばらくの期間に渡って共同生活をしてきたかのような空気感が流れていたため、敢えて会を閉じる必要は無いと判断し、手綱を場に明け渡しました。

この瞬間に私は、副題であった『共生』は叶い、『共創』の種を撒くことにも成功したことを実感していました。

## 6. まとめ

本会は、医学部の環境が医学知識・技術の習得、すなわち **mechanical arts** の習得に偏重していく背景の中で、課題を認知・解決するために、自ら思考し行動する医師を育てることを目的として、医学生・医師が **liberal arts** を習得する場として企画されました。

我々は「liberal arts とは、自らに由って思考し、行動し、責任を果たす『自由』という営みのために必要な技術であり、その習得方法は、旅に出て、人と対話し、本を読むことである」と信じています。

本会は、「医学生・医師の **liberal arts** 習得」というテーマにおける壮大な社会実験であったと言えます。

**最も短期的なアウトカム**として、参加者が本会に参加するという意思決定をして、実際に参加したという行動自体を、評価することができます。

**短期的なアウトカム**として、開催中の参加者の主体的行動が挙げられます。本会における参加者の主たる主体的行動の選択肢は「企画の創出・参加」と「参加者同士の対話」でした。結果は、コアメンバーを中心に参加者から企画が複数創出され、会場全体で絶え間なく闊達な議論や対話が行われていました。

**中長期的アウトカム**として、参加者一人一人が自ら思考して課題を認知、追究し、解決のためのアクションを起こすことや、参加者同士や外部ネットワークと協働して、コレクティブインパクトを生んでいくことが挙げられます。現状は、この4ヶ月の間に数えきれないほどの会合が全国各地で企画され、primary care, public health, health tech 等のイノベーション領域を中心に、新しいプロジェクトが始動していきました。

**最終的なアウトカム**は、本企画の参加者が『共生と共創の価値』を広く地球社会全体に伝播・循環させていくことで、残すに値する持続可能な世界を、次世代に繋いでいくことであると信じています。

今後も、本活動をスタート地点に活動を発展させていくとともに、多様な人々や組織と協

働し、コレクティブインパクトを生めるよう、精進してまいります。

## 7. サポーター様

(敬称略, 順不同)

長谷川 優/金原 充志/雨森 正記/山田 壮史/守本 陽一/藤沼 康樹/大西 弘高  
奥谷 はるか/中込 雅人/近藤 敬太/河合 紗和/森 悠太郎/田中 いつみ  
前田 和俊/寺澤 佳洋/藤村 周平/加藤 正寛/渡邊 由桂/奥 知久/石田 裕也  
向原 千夏/森 重智/松下 明/吉田 伸/真野 悠太郎/齋藤 朱花/上田 悠理  
一般社団法人 群星沖縄臨床研修センター

## 8. 謝辞

本会は、私、代表山地の志一つで始まった文字通り 0⇒1 の企画でしたが、開催にあたり強い葛藤や迷いがありました。

私の心には強く明確な志がありましたが、見渡す限り、不可能な理由とやるべきでない理由で溢れていました。初期研修医という立場、コロナ禍という環境、顕在化されていないニーズなど、心が折れるには十分な逆風でした。それでも、自分の脳内にイメージされる、たくさんの方々の笑顔を信じて、開催を覚悟し、走り出すことができました。

2023年9月にチームを結成し、会の中身をメンバーと練りながら、ご支援を募り、参加者を募り、参加者のコーチングをするという、怒涛の日々が続きました。

医療機関様からのご支援を頼りにしていた私は、思ったように上手くいかない現状に挫折しそうになりながらも、個人としての寄付ならばと、温かく応援して下さった皆様に救われ、個人様にご寄付を募る方向性に大きくピボットしました。

お一人お一人と直接お話をしてお願いをする形は、今にして思えば非常に不器用かつ不合理的で、ご迷惑な行為であったようにも思われます。未熟な私にとっての誠意の示し方であったことを、どうかご理解賜れますと幸いです。

何よりも、ご相談させていただいた皆様、ご支援者の皆様お一人お一人が、私の稚拙な説明に真剣に耳を傾けて下さったことが、私にとって心から有難く、日々を生き、最後まで走り切るエネルギーになりました。

このような意味で本会は、ご支援くださったサポーターの皆様のお力がなければ実現できなかった奇跡であると、私は信じております。

大変ありがたいことに、本会に参加して下さった参加者の皆様からは「こんな場所がずっと欲しかった」「また絶対に来たい」「もっとこの輪を広げたい」など最高の褒め言葉をいただきました。頂いた賞賛や感謝の言葉は、私やコアスタッフ、サポーターの皆様の全員で共有させていただきたいと思っております。

今後とも、賜ったご支援と挑戦の機会を存分に活かし、広く世の中にご恩を還元していくべく、誠心誠意取り組み、精進して参りたいと思っておりますので、変わらぬご指導のほど、何卒

よろしくお願い申し上げます。次回開催の折には、ぜひ皆様と直接お会いできますことを心より楽しみにしております。